

# 学ぶ力向上 滋賀プラン

夢と生きる力を育てる

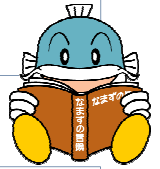
平成27年(2015年)3月

滋賀県教育委員会

## 教育メッセージ

# ～子どもたちの「学ぶ力」を育てましょう～

滋賀の子どもたちが、自分の将来を真剣に考え、仲間と共に力を合わせ、自ら進んで学ぼうとする力を身に付けることは、子どもたちの人生そのものを豊かにすることにつながります。県全体で、子どもたちの「学ぶ力」を育てていきましょう。



### 1. 子どもたちへ

みなさんに一番がんばってほしいことは、自分の可能性を信じ、失敗を<sup>おそ</sup>恐れ<sup>ちようせん</sup>ないで挑戦する心を持つことです。そして、友達の良さを<sup>そんちよう</sup>尊重し、仲間と支え合い、人を思いやる心を大切にしましょう。また、「なぜ」「どうして」と考えたり、いろいろな人の意見を聞き、自分の考えを伝えたりすることや、難しいことでもあきらめず<sup>ねば</sup>に粘り強く挑戦することなどを通して、いろいろなことに積極的に取り組むことのできる人になりましょう。

### 2. 保護者のみなさんへ

子どもに寄り添い、子どもの声や思っていることに耳を傾けましょう。子どもが挑戦しようとしていること、困難なことにも立ち向かい努力していることなどを通して少しずつ自分に自信を持ち、力を付けていく姿を見守り、成長を共に喜びましょう。子どもが自立するためには、家庭の力が大切です。子どもが人として身に付けなければならない正しい習慣を身に付け、家庭の中での役割を果たし、家族や周りの人を大切にできる子どもに育てましょう。

### 3. 学校の先生へ

未来を拓く心豊かでたくましい人づくりを教育の柱に、学び合い支え合う「共に育つ」滋賀の教育を保護者や地域の方と一緒につくりましょう。子どもたち一人ひとりの能力や可能性を引き出し、子ども同士が考えを交流し、わかる・できる喜びを感じられるような授業改善に努めましょう。一人ひとりの子どもと向き合い、理解し、教師として子どもたちのために何ができるかを常に考え、家庭や地域から信頼される学校をつくりましょう。

### 4. 地域のみなさんへ

将来、生まれ育った地域を誇りに思い、地域での学びを自らの生き方に生かすことができる子どもたちを育てましょう。子どもたちが安心して育つ環境づくりが必要です。滋賀の子どもたちは、地域社会の中で、語らいやふれあいを通して多くのことを学んでいます。地域とのつながりを大切にし、自ら何事にも挑戦し、やり抜くことのできる子どもたちを、学校・園、家庭、地域が一体となって育てていきましょう。

# 目 次

はじめに	1
1 学ぶ力向上 滋賀プラン	2
2 学ぶ力を育むための6つの視点についての指標	3
学ぶ力を育むための6つの視点についての経年変化（抜粋）	5
3 本県の現状と課題	7
4 学ぶ力を育む6つの滋賀プラン	9
5 プランの進行計画	12
6 学習状況の改善のPDCAサイクルの確立	13
資料編	
資料1 学ぶ力を育むための6つの視点についての経年変化	15
資料2 学ぶ力を育む6つの視点を基にした児童生徒質問紙の分析	19
資料3 教科の平均正答率とのクロス集計	25
資料4 学ぶ力向上のための指導実践目標	31
おわりに	32

## はじめに

滋賀県では、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～学び合い支え合う『共に育つ』滋賀の教育～」を教育の基本目標に、平成 26 年度(2014 年度)から 30 年度(2018 年度)までの県全体の教育の振興に関する施策を総合的かつ計画的に進めるため「第 2 期滋賀県教育振興基本計画」を策定したところです。

そうした中であって、本県の児童生徒の学力や学習の状況は、全国学力・学習状況調査の結果をみると、教科に関する調査において、小学校、中学校ともに、基礎・基本を身に付けさせることや問題を読む力や書く力などの言語力の育成が課題として浮かびあがってきました。

また、学習状況調査からは、学習の基本となる学びの姿勢や態度が十分に身に付いていないこと、全国学力・学習状況調査の調査結果を十分に分析し、児童生徒のつまずきの原因や学習状況の改善すべき点を教職員が理解し、共有してこなかったことなども課題であることがわかりました。特に、児童生徒質問紙の教科に関する設問の回答結果では、学習意欲や学習への関わりに関する項目の多くで全国の平均値を下回っており、児童生徒の学習意欲を高めていくことが急務です。

これらの課題を解決するには、全ての子どもの能力を最大限に引き出し、充実感や達成感の中で人生そのものが豊かになるよう育む必要があります。子どもたちが互いに尊重し、力を合わせ、ともに教え合う中で、また、社会や自然の中で学ぶことで、生きる力が育まれるようにしなければなりません。そのためには、就学前からの子どもの育ちを支える環境をつくとともに、「学ぶ力」を育成することが大切です。

そこで、特に本県における就学前から中学校までの、子どもたちの学ぶ力の向上に向けた目標と施策の方向性を示す 4 年間の中長期計画を策定することとし、その中で、一人ひとりの子どもに、学ぶ力をつけるための視点として、「一人ひとりの学ぶ力を高める」「生活の中で学ぶ力をつける」「繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す」「放課後や家での時間の使い方を考える」「県全体で子どもの力を伸ばす」「授業を改善する」を設定し、これをもとにした 6 つのプランにより、子どもたちの夢と生きる力を育てることを目指します。

子どもたち一人ひとりの学ぶ力を高め、仲間と周囲とのつながりを大切にし、自ら進んで学び、自分の将来を真剣に考えることのできる子ども、互いの良さを認め尊重し、自ら進んで挑戦し、やり抜くことのできる子どもを育てる「夢と生きる力を育てる教育」を県全体で推進するため「学ぶ力向上 滋賀プラン」を策定します。

# 1 学ぶ力向上 滋賀プラン

## 夢と生きる力を育てる

仲間と周囲とのつながりを大切にし、自ら進んで学び、自分の将来を真剣に考えることのできる子どもを育てる

学ぶ力を育むための6つの視点

互いの良さを認め尊重し、ほめることで自尊感情を高め、互いに認め合いながら、自ら進んで挑戦し、やり抜くことのできる子どもを育てる



## 2 学ぶ力を育むための6つの視点についての指標

滋賀県の学力向上については、夢と生きる力を育てる重要な要素である「学ぶ力」を育成することを目標とします。そのため、学力・学習状況等の改善について、PDCA サイクルを回しながら実際に動かし、検証を重ねながら学ぶ力を向上する取組を進めていく必要があります。

そこで、「学ぶ力を育むための6つの視点」を設定し、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の中から、それぞれの視点に関連すると考えられる質問項目を4項目ずつ選択し、それらの項目についての児童生徒の回答状況を数値化したものを指標とします。この指標を用いてチェックしていくことにより、PDCA サイクルを機能させます。

### □ 学ぶ力を育むための6つの視点における指標および目標

6つの視点	指標とする学習状況の児童生徒への質問項目
一人ひとりの学ぶ力を高める	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか
	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか
	将来の夢や目標を持っていますか
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
生活の中で学ぶ力をつける	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか※1
	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか
	友達との約束を守っていますか
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか※2
	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
放課後や家ででの時間の使い方考える	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
	普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを読みますか※3
	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
	家で、学校の授業の予習をしていますか
県全体で子どもの力を伸ばす	今住んでいる地域の行事に参加していますか
	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか
授業を改善する	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか
	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国学力・学習状況調査の児童生徒への質問項目の選択肢は、多くが4択になっていることから、次のように得点化しました。

「当てはまる」・・・4点、「どちらかといえば当てはまる」・・・3点、「どちらかといえば当てはまらない」・・・2点、「当てはまらない」・・・1点とし、それぞれ回答した割合とこれらの点数をかけて合計しました。

※1「読書…」については、30分以上：4点、10～30分：3点、10分未満：2点、全くしない：1点とした。

※2「400字詰め原稿用紙…」については、そう思わない：4点、どちらかといえばそう思わない：3点、どちらかといえばそう思う：2点、そう思う：1点とした。

※3「インターネット…」については、持っていない：4点、30分より少ない：3点、1時間より少ない：2点、1時間以上：1点とした。

6つの視点に関連する4項目の得点の合計を指標として、計画の進行や具体の取組について評価し、PDCAサイクルの検証に供することとします。

小学校 県	小学校 全国	小学校 差	中学校 県	中学校 全国	中学校 差	H26 現状値	プランの目標
294.9	295.4	-0.5	276.7	280.7	-4	小学校	小学校
255.2	252.4	2.8	253.1	249.1	4	1264	H26現状値を2年で12点上回る
350.9	351.5	-0.6	298.1	306.2	-8.1	中学校	中学校
362.5	363.8	-1.3	361.2	364.5	-3.3	1189	H26現状値を2年で12点上回る
275	283.4	-8.4	235.1	249.9	-14.8	小学校	小学校
329.2	329.5	-0.3	307.8	307.9	-0.1	1248	H26現状値を2年で12点上回る
364.9	364.4	0.5	360.7	362.2	-1.5	中学校	中学校
278.6	281	-2.4	261.2	269.6	-8.4	1165	H26現状値を2年で12点上回る
364.1	364.7	-0.6	359.4	363.4	-4	小学校	小学校
300.9	310.1	-9.2	276.4	291.8	-15.4	1177	H26現状値を2年で12点上回る
203.3	214.5	-11.2	193.7	206.1	-12.4	中学校	中学校
308.7	315.4	-6.7	287.1	295.3	-8.2	1117	H26現状値を2年で12点上回る
347.1	347	0.1	343.1	346.1	-3	小学校	小学校
306.5	305.7	0.8	206.4	214.2	-7.8	1160	H26現状値を2年で12点上回る
272.3	277.2	-4.9	241.2	245.7	-4.5	中学校	中学校
234.4	239.7	-5.3	220.5	216.8	3.7	1011	H26現状値を2年で12点上回る
323.2	292.3	30.9	256.3	231.8	24.5	小学校	小学校
270.4	276.6	-6.2	255.9	259.2	-3.3	1184	H26現状値を2年で12点上回る
225.8	235.4	-9.6	208.1	212.1	-4	中学校	中学校
364.4	366.9	-2.5	367.8	371.3	-3.5	1088	H26現状値を2年で12点上回る
324.6	329.7	-5.1	308.9	313.8	-4.9	小学校	小学校
285.9	298.7	-12.8	234.8	256.3	-21.5	1291	H26現状値を2年で12点上回る
332	338	-6	312	320	-8	中学校	中学校
348.6	351.3	-2.7	289.2	298.3	-9.1	1145	H26現状値を2年で12点上回る

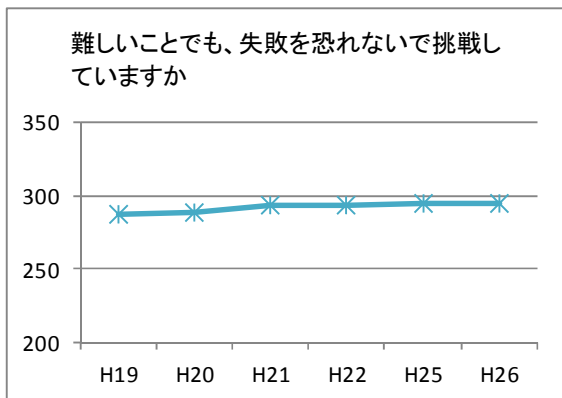
指標とする質問項目について、平成19年度あるいは20年度から経年変化を追うことができるものを選び、グラフにすると、次ページからようになります（「学ぶ力を育むための6つの視点についての経年変化」）。「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」などについては、年を追うごとに増加していますが、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」などについては、あまり顕著な改善が見られないことが分かります。

# 学ぶ力を育むための6つの視点についての経年変化(抜粋)

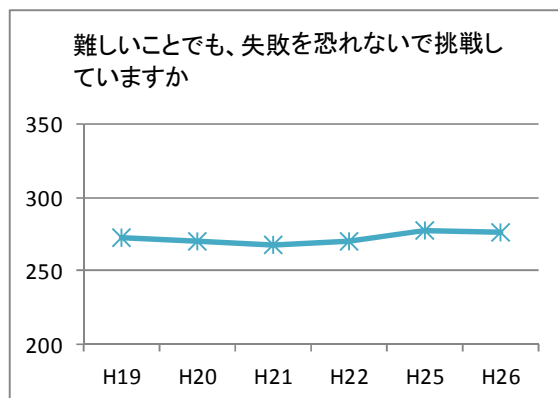
以下の指標とした全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の設問は、4択になっていることから、各設問に対して、それぞれの回答を次のように得点化している。  
 「当てはまる」・・・4点、「どちらかといえば当てはまる」・・・3点、「どちらかといえば当てはまらない」・・・2点、「当てはまらない」・・・1点とし、それぞれ回答した割合とこれらの点数をかけて合計したものを縦軸にし、経年の変化をグラフで表した。

## 1 一人ひとりの学ぶ力を高める

小学校

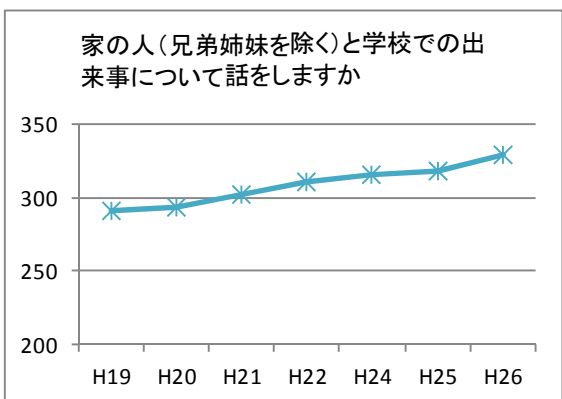


中学校

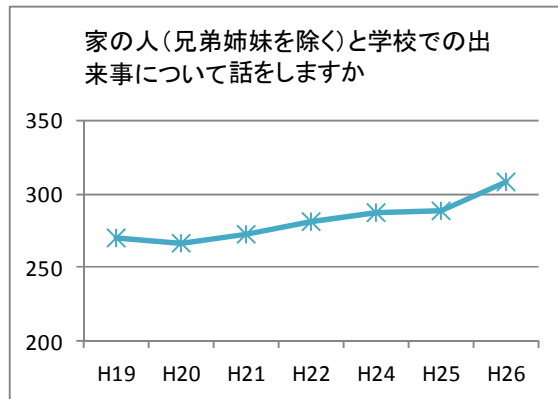


## 2 生活の中で学ぶ力をつける

小学校

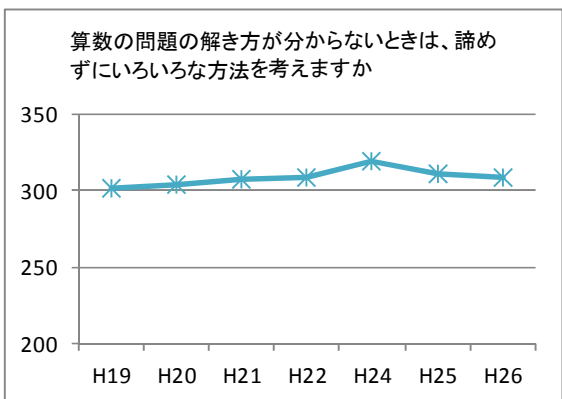


中学校

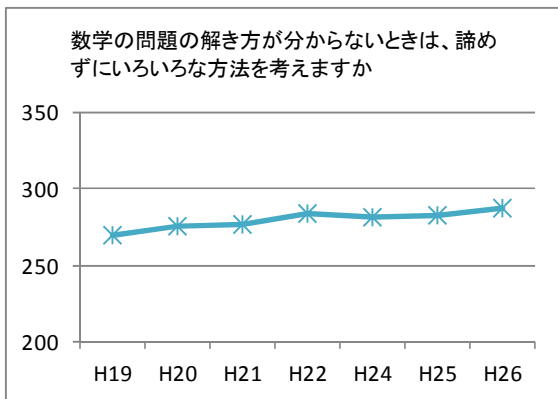


## 3 繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す

小学校

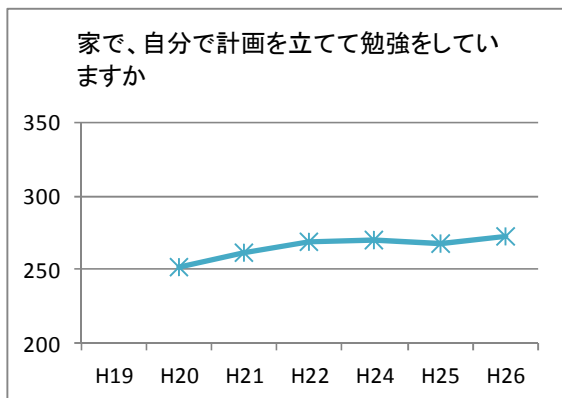


中学校

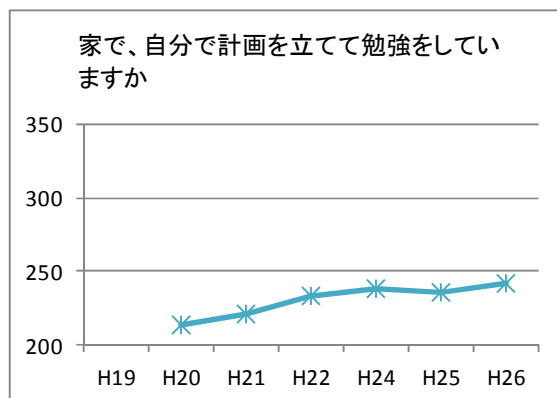




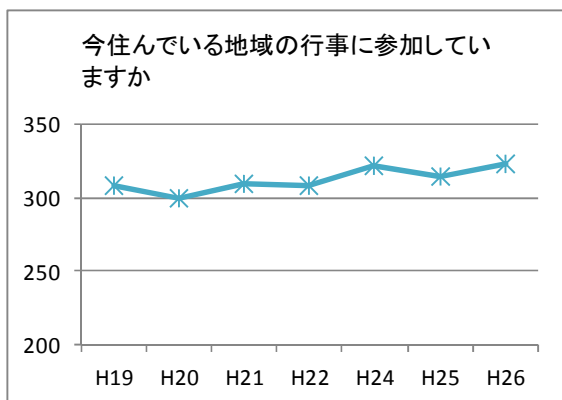
#### 4 放課後や家での時間の使い方を考える 小学校



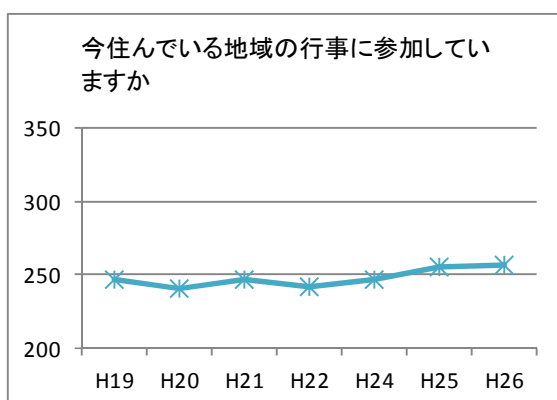
#### 中学校



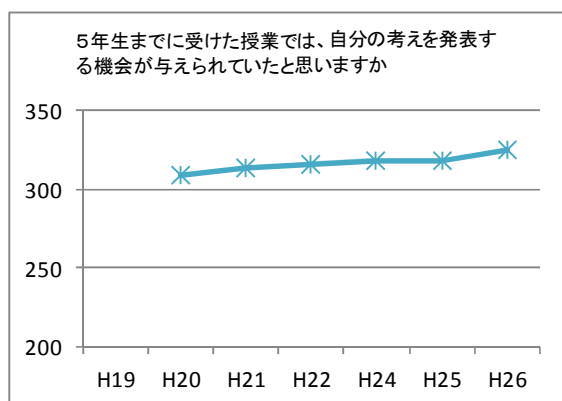
#### 5 県全体で子どもの力を伸ばす 小学校



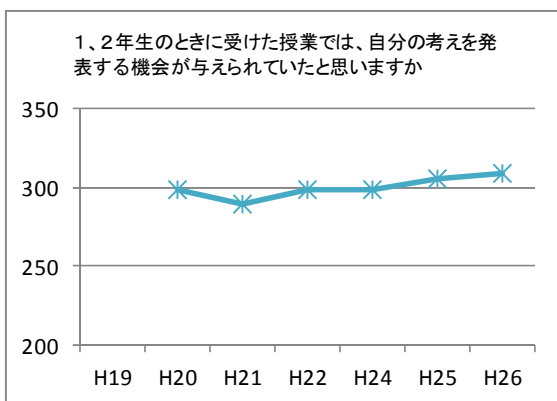
#### 中学校



#### 6 授業を改善する 小学校



#### 中学校



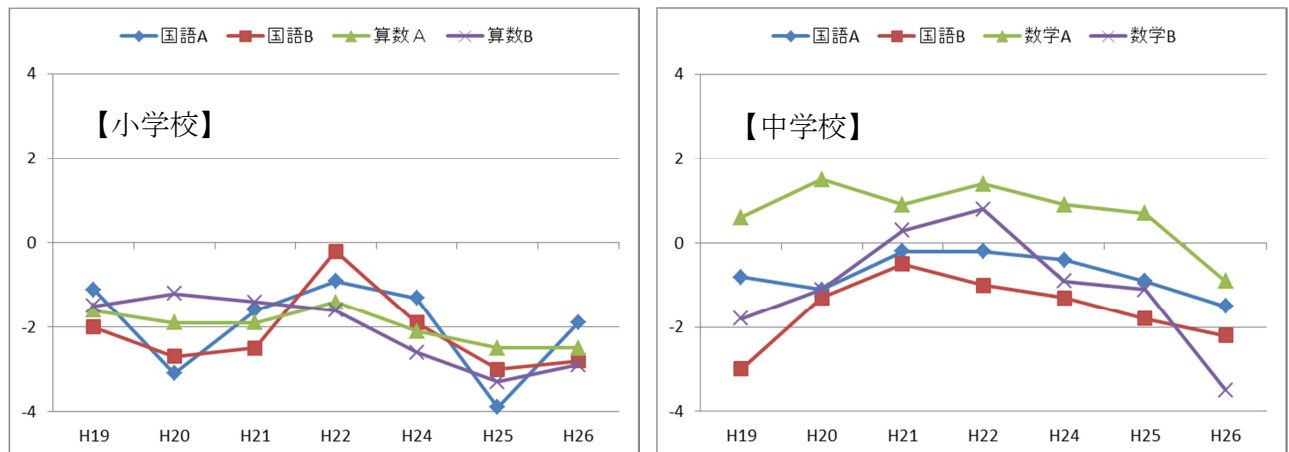
(他の項目の経年変化については、資料1：p15~を参照)

### 3 本県の現状と課題

全国学力・学習状況調査の各教科における平均正答率は、下のグラフのように変化しています。各教科の調査は、難易度が年度によって異なるため、滋賀県の平均正答率と全国平均の差をとってグラフに表しています。

グラフ1 滋賀県の平均正答率と全国平均の差の推移

※平成22年度・24年度は抽出調査のため誤差±1%程度の精度であり、参考値。  
 ※平成23年度は、東日本大震災により未実施。



グラフから、平成25年度に小学校の各教科で、全国との差が最も開きましたが、平成26年度には、国語A・B、算数Bで少し改善しました。思考力・判断力・表現力の育成とともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る指導の充実が、引き続き求められます。

中学校では、平成26年度に数学Bでの下降が著しく、また、国語は平成22年度から徐々に下がり続けていることから、学習状況と教科指導の両面から改善を図る必要があります。

これらの改善のためには、まず、授業を改善して、わかる・できる喜びを実感させ、教科の学習に関する関心・意欲を高める必要があります。また、家庭での学習習慣を始め、児童生徒の学習状況を改善し、主体的な学びの姿勢を育成する必要があります。

児童生徒質問紙の教科に関する設問の回答結果では、学習意欲や学習への関わりに関する項目の多くで全国の平均値を下回っており、児童生徒の学習意欲を高めていくことが急務です。

全ての子どもを最大限に引き出し、充実感や達成感の中で人生そのものが豊かになるよう育み、子どもたちが互いに尊重し、力を合わせ、ともに教え合う中で、また、社会や自然の中で学ぶことで、生きる力が育まれるようにしなければなりません。そのためには、これらの基礎となる「学ぶ力」を育成することが大切です。さらには、学校、家庭、地域が一体となって、子どもの育ちを支える環境をつくることも重要です。

「2 学ぶ力を育むための6つの視点についての指標」では、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の中から、それぞれの視点に関連している質問項目を4項目ずつ選択し、それらを指標とすることを述べましたが、平成25年度と26年度のデータをもとに、全国の状況、および昨年度の状況との比較により、本県の現状と課題について分析しました。

それぞれの視点に関連している質問項目すべてについてグラフで表すと、資料2（p19～）のようになります。平成26年度の状況を、全国の回答結果の平均と比較して、次のように○△×で評価すると、下の表のようになります。

- ：全国よりも上回っているか同じ
- △：全国よりも2.0ポイント未満下回る
- ×：全国よりも2.0ポイント以上下回る

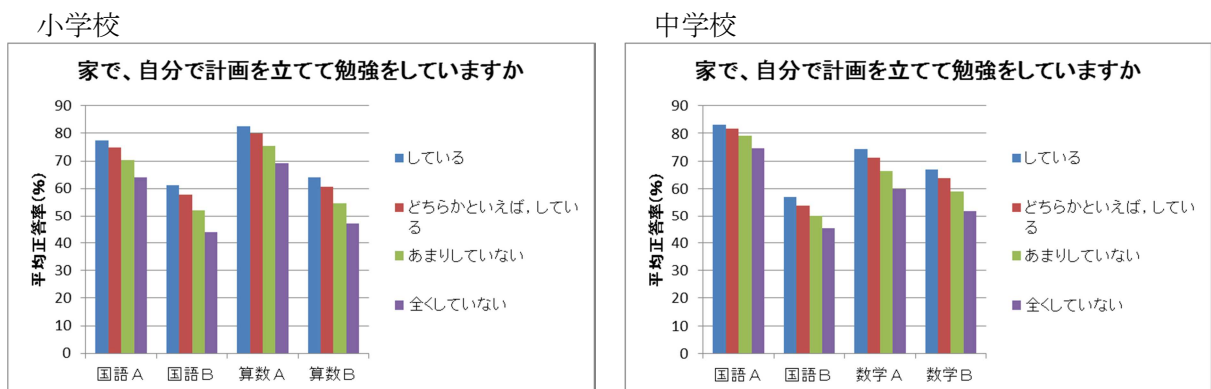
□ 学ぶ力を育むための6つの視点についての分析の評価

	小学校			中学校		
	○	△	×	○	△	×
一人ひとりの学ぶ力を高める	1	3	0	1	0	3
生活の中で学ぶ力をつける	1	1	2	0	2	2
繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出す	0	1	3	0	0	4
放課後や家での時間の使い方を考える	1	2	1	1	1	2
県全体で子どもの力を伸ばす	1	0	3	1	2	1
授業を改善する	0	1	3	0	1	3

指標とした48項目のうち、全国より上回っているか同じものは7項目であり、学習の基本となる学びの姿勢や態度が十分に身に付いていないことや、児童生徒の学習意欲を高めていく必要があることが、これらのことからわかります。特に、繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出すこと、授業を改善することなどに優先的に取り組む必要があります。

また、それぞれの項目が全国学力・学習状況調査の教科の平均正答率とどのような関係にあるかを分析しました（資料3「学ぶ力を育む6つの視点を基にした児童生徒質問紙の分析 教科の平均正答率とのクロス集計」p25～）。平成26年度調査の全国データから分析すると、指標とする多くの項目で教科の平均正答率と有意な相関関係があるものが多いことがわかります。

グラフ2 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」と各教科の平均正答率の関係



例えば、グラフ2のように「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問項目に、肯定的に回答した子どもほど平均正答率が高いことがわかります。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」などの相関の高くない項目が、より根源的な部分から学ぶ力を支えている可能性もあり、「学ぶ力」として総合的に学力を向上させることが重要です。

## 4 学ぶ力を育む6つの滋賀プラン

学ぶ力を育むことは学校教育の重要な役割ですが、家庭や地域の関わり方によって、その育ち方は大きく変わります。子どもの良さを見つけ、子どもが互いに認め合う学校・家庭づくりを進め、子どもの学ぶ力を育むことが必要です。学ぶ力を育む6つの滋賀プランを次のように示し、市町教育委員会と連携して、各学校・園、家庭、地域と一体となって取り組むこととします。

### (1) 一人ひとりの学ぶ力を高めるプラン

#### ○豊かな人間性や人間関係を築く力を培う体験活動の取組

豊かな人間性や人間関係を築く力を培うため、人と人との絆を深め、感性を養うとともに、感動、本物、仲間などが実感できる体験活動を意図的、計画的に推進します。

(うみのこ、やまのこ、たんぼのこ等)

#### ○社会人・職業人として自立していくことができる教育の取組

自立して生きていくために必要な能力や態度を育成するため、小学校での職場訪問や社会見学、中学校での「中学生チャレンジウィーク」などの取組を実施します。

(中学生チャレンジウィーク)

#### ○一人ひとりに応じて個性や能力を伸ばす取組

子どものつまずきや課題の状況を的確に把握し、習熟度に合わせた少人数による指導や複数教員による指導、放課後等を利用した補充学習などを通じて、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行い、一人ひとりに応じて個性や能力を伸ばします。

(少人数学級編制・少人数指導)

### (2) 生活の中で学ぶ力をつけるプラン

#### ○体験を通して学びの基礎を育む取組

小学校1・2年生に主体的に学ぶ姿勢、学び方、学習規範などを身に付けさせるために、就学前からの体験的な活動の指導のポイントをまとめた手引きを作成し、授業研究による指導の重点の共通理解を図るとともに、各学校・園での実践を通して、子どもたちに学ぶ力の基礎を身に付けさせます。

(学びの基礎体験型学習プロジェクト)

#### ○学び合う学習環境をつくる取組

子どもによる自発的、自治的な話し合い活動を進め、学級会や児童会活動・生徒会活動の活性化を図り、グループで学び合う活動や、自分の考えを伝え合う活動を取り入れた共同的な学びを推進します。

(学級活動スキルアップ事業)

#### ○自分も他の人も大切にしたい集団をつくる取組

子どもの自主的・自立的な活動の充実を図ることにより、子どもが主人公となる学校づくりを推進し、子ども自身が自己有用感や絆を感じ、心の通い合う対人関係や社会性を育みます。

(滋賀県「絆をつむぐ学校づくり」推進事業)

### (3) 繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出すプラン

#### ○繰り返し取り組み、学ぶ意欲や自信を高める取組

小学校3年生以上で評価問題を実施し、つまづきを把握するとともに、つまづいた箇所を繰り返し学ばせることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、ねばり強くやり切る姿勢を身に付けさせます。

(学年別ステップアップ事業)

#### ○放課後を活用し、個に応じた学習サポートや運動機会の充実を図る取組

子どものつまづきや課題の状況を的確に把握し、放課後等を利用した補充学習を通じて、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。また、放課後等の時間を活用することで、子どもの運動遊びの機会を充実させます。

(放課後等活用事業)

#### ○基礎的・基本的な知識・技能を定着させる取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成に向け、朝の10分間読書等の読書活動、ペアやグループでのコミュニケーション、説明や発表等、学習指導要領に則り、各教科等を通じた言語活動の充実を推進します。

(学ぶカパワーアップ事業)

### (4) 放課後や家での時間の使い方を考えるプラン

#### ○個に応じたきめ細かな指導の推進を図る取組

放課後等も利用して学習の補充を行うための取組を進めるとともに、家庭と連携して、自ら進んで行う家庭学習、予習復習等の習慣化を図り、学校と家庭の連携による授業づくり、主体的な学びの充実を推進します。

(放課後等活用事業) 再掲

#### ○家庭での学習習慣や、主体的な家庭学習を確立する取組

子どもが家庭学習に取り組むよう働きかけ、最終的に主体的な学びにつなげるために、家庭学習の手引きを作成し、子どもに家庭学習を確実に習慣化させる取組を行うとともに保護者と協力して家庭学習の充実に取り組みます。

(家庭学習の充実)

#### ○人間関係の育成や生活習慣の改善につなげる取組

子どもが豊かな人間関係をつくることができるよう、子ども一人ひとりを認め、ほめることで自尊感情を高め、自ら進んで挑戦し、やり抜くことのできる子どもを育てるとともに、生活習慣の改善・向上や食育の推進を図るため、家庭や地域と連携した取組を進めます。

(家庭向け各広報等)

## (5) 県全体で子どもの力を伸ばすプラン

### ○学校・園、家庭、地域社会が一体となり、自己実現を図れるよう支援する取組

子どもが主体的に進路を切り拓き自己実現を図れるよう、中学校区を単位に学校・園、関係機関、家庭、地域社会がつながり、人権の視点を教育活動の根幹に位置付け、自尊感情の育成を中心に、子どもの生活と学ぶ意欲を支える取組を推進します。

(自尊感情・学びの礎育成プロジェクト事業)

### ○土曜日ならではの豊かな教育環境を提供する取組

学校、家庭、地域が連携し、役割分担しながら、「土曜授業」<sup>※1</sup>「土曜の課外授業」<sup>※2</sup>「土曜学習」<sup>※3</sup>の機会を総合的に充実させることで、地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会の充実に取り組み、子どもたちの土曜日の教育環境を充実させます。

(土曜日を活用した特色ある教育活動)

※1「土曜授業」 : 全員を対象に、土曜日を活用した教育課程内の学校教育活動を行うもの。

※2「土曜の課外授業」 : 希望者を対象に、土曜日を活用した教育課程外の学校教育活動を行うもの。

※3「土曜学習」 : 希望者を対象に、土曜日を活用して、学校以外の者が学習や体験活動等の提供を行うもの。

### ○体力の向上、運動機会の充実を図る取組

子どもの運動習慣の確立のため、園では、様々な遊びを中心に毎日 60 分以上楽しく体を動かします。また、学校や地域において、1日30分運動を推進します。特に、朝や業間、放課後に、毎日、全校児童が取り組む10分間運動の促進により、「子どもを運動(遊び)好きにするための取組」の一層の推進を図ります。

(体育授業力向上事業)

## (6) 授業を改善するプラン

### ○思考力・判断力・表現力を育成する取組

子どもの思考力や表現力を高めるために発問を工夫するなど授業改善を図ります。また、子どもとのやりとりを通して評価能力を高めるとともに、その学習成果を確かめる評価問題を研究・活用し、授業改善に生かせる力が付くよう指導に努めます。

(学力向上アプローチ事業)

### ○教科指導力を向上し、学力を高める取組

子どもの基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力等を育成し、「確かな学力」についての明確な学力観をもち、子どもの能力を引き出すことのできる力を身に付けるための授業力を高める研修の充実を図ります。

(教科主任指導力向上研修)

### ○幅広い知識や授業技術等、実践的指導力を身に付ける英語教育の取組

英語等の外国語能力を育てるため、小学校における外国語活動、中・高等学校の系統的な英語教育等を進めます。高等学校では英語の授業は英語で行うことを基本とし、英語を使って言語活動をするなど、生徒が英語に触れる機会の充実を図ります。

(しが英語力育成プロジェクト)

# 5 プランの進行計画

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
・2年スパン（Ⅰ期・Ⅱ期）で4年計画を策定 ・学力・学習状況等の改善の方向性と施策を示す		Ⅰ期 基礎的・基本的な知識・技能の定着 学び方の指導、学ぶ意欲の向上 学習状況や生活習慣の改善	Ⅱ期		思考力・判断力・表現力の育成 課題発見能力・問題解決能力の育成	
(1)一人ひとりの学ぶ力を高めるプラン	体験活動の推進	体験活動	<うみのこ、やまのこ、たんぼのこによる体験活動など> 豊かな人間性や人間関係を築く力を培う			
	キャリア教育の推進	中学生チャレンジウィーク	<中学生チャレンジウィーク> 社会人・職業人として自立できる子どもの育成の推進			
	個に応じたきめ細かな指導の推進	少人数教育	<少人数学級編制・少人数指導> 一人ひとりに応じて個性や能力を伸ばす			
(2)生活の中で学ぶ力をつけるプラン	体験を通して学びの基礎を育成	学びの基礎指導の手引きの作成・配付	<学びの基礎体験型学習プロジェクト> 手引きを活用した授業研修会の実施		各学校・園での実践	
	学び合う学習環境づくり	学級活動いきいき体験プロジェクト	<学級活動スキルアップ事業> 学び合う学習集団を作る取組			
	自他を尊重する集団づくり	絆をつむぐ学校づくり	<滋賀県「絆をつむぐ学校づくり」推進事業> 自分も他の人も大切にしたい集団をつくる取組の推進			
(3)繰り返し努力したことを認め能力や可能性を引き出すプラン	繰り返し取り組み、学ぶ意欲の向上や自信の獲得	つまずき診断テスト 学び直しの問題集の配付・活用	<学年別ステップアップ事業>		評価問題でつまずきを把握 学習プリントを活用して学び直し 基礎的・基本的な知識・技能の定着 → 思考力・判断力・表現力の育成	
	個に応じた学習サポートや運動機会の充実	放課後学習 バックアップ事業	<放課後等活用事業> 放課後の活用を支援		補充学習の充実 運動機会の充実	
	基礎的・基本的な知識・技能の定着	言語活動 スタートアップ事業 学ぶ力パワーアップ事業	<学ぶ力パワーアップ事業> 基礎学力を向上させる実践研究		成果の普及、各学校での実践	
(4)放課後や家での時間の使い方を考えるプラン	放課後等の補充学習、運動機会の充実	放課後学習 バックアップ事業	<放課後等活用事業> (再掲) 放課後の活用を支援		補充学習の充実 運動機会の充実	
	家庭での学習習慣や主体的な家庭学習の確立	家庭学習の手引きの作成・配付	<家庭学習の充実>		各市町や学校で手引きを作成 児童生徒に家庭学習の意義や方法を指導 保護者に家庭学習の意義を説明、共通実践	
	人間関係の育成や生活習慣の改善についての啓発	学習習慣・生活習慣の改善	<家庭向け各広報など>		リーフレット等で学習習慣・生活習慣の改善を啓発 県民運動の展開 食育の日の推進	
(5)県全体で子どもの力を伸ばすプラン	学校、家庭、地域社会が一体となり、自己実現を図れるよう支援	子ども輝き人権教育推進事業	<自尊感情・学びの礎育成プロジェクト事業> 授業づくり、仲間づくり、環境づくりなどを通して、日常的・継続的に自尊感情を育む取組を推進			
	土曜日ならではの豊かな教育環境の提供	土曜日を活用した特色ある教育活動	<学ぶ力を育てる土曜学習支援事業> <土曜授業推進事業> 地域人材の協力により、豊かで有意義な土曜日を提供			
	体力向上・運動機会の充実	体力向上支援事業	<体育授業力向上事業> 体育の授業づくり・体力向上の推進			
(6)授業を改善するプラン	思考力・判断力・表現力の育成	学力向上アプローチ事業	<学力向上アプローチ事業> 活用する力をつける実践研究		成果の普及、各学校での実践	
	教科指導力の向上	教科主任指導力向上研修	<教科主任指導力向上研修>		校内研究の充実を図る研修の充実 初任者研修・10年経験者研修の内容精選・充実	
	系統的な英語教育の推進	英語力向上に向けての調査・研究	<しが英語力育成プロジェクト> 小・中・高を通じた系統的な英語教育を推進			

## 6 学習状況の改善のPDCAサイクルの確立

### 全国学力・学習状況調査を活用した検証と学習状況の改善のPDCAサイクルの確立

